

科目名	メディアと情報伝達	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi 近藤 諭 / KONDOU, Satoru	
科目情報	教養科目 4 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	教養科目「受講生参加科目」 / 司書資格科目 / 選択 (法定科目名「図書館基礎特論」)	
科目概要	授業内容	メディアの発展とそれに伴うコミュニケーションへの影響についての理解を通じて、コミュニケーションや社会制度がどのように変化してきたのか、を学習する。 授業内で、グループに分かれてのディスカッション、問題発見・解決法の提示などといったアクティブ・ラーニングを実施する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音、声、ことば、文字・記号、印刷技術、写真技術、通信技術などが、コミュニケーションを円滑にするために発展し、結果として社会制度の変革につながってきたことが理解できる。 更に、インターネットに代表される新しいメディアが、これまで以上に社会制度を変革し、私たちの生活や思考を変えていくことについて、事例を通して考えることが出来る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) メディアとは何か：音、声、ことば、文字、印刷技術(本／雑誌／新聞) (3) 有線通信技術と文字・音声メディア(電信／電話) (4) 無線通信技術と音声・映像メディア(ラジオ／テレビ／映画) (5) 無線通信技術と遠隔コミュニケーション(無線機／携帯電話) (6) インターネット関連技術とデータベース・情報検索 (7) インターネット関連技術と双方向メディア (8) コミュニケーションの不確実性(他者と自己) (9) コミュニケーションの成立を支える要素(状況について) (10) コミュニケーションの変化 (11) グループワーク (1) (12) グループワーク (2) (13) グループワーク (3) (14) グループワーク (4) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> グループで課題が出された時は、授業時間以外でも打ち合わせして、グループでの課題学習に取り組むこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で出てきた用語や、他グループの報告内容の分からないところを、各自で復習して理解を完全にしよう努めること。
使用教材・参考文献	【教】 適宜ハンドアウトを用いる	
成績評価方法と基準	<基準>「種々のメディアの特性や、それが果たした役割を理解できているか。これからの新しいメディアを利用する上で、注意を払う点、コミュニケーションに対する変化についての理解度合い」を合否判断の基準とする。 <方法> 受講態度20%、グループ学習成果40%、個人別課題の提出20%、レポート20%	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。 グループ学習を柱とする授業のため受講人数には制限をかける。	